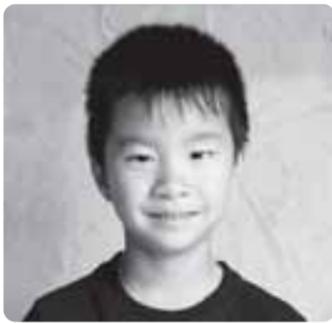


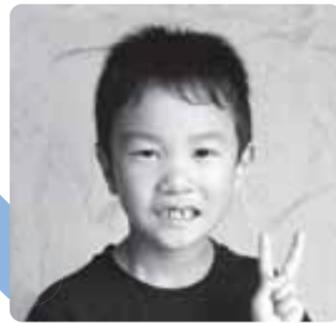
# 菊陽人 りさーち



まつもと ひょうが  
**松本 彪雅くん**  
(6歳・北新山)

- 趣味  
お友達と遊ぶこと
- 将来の夢  
カレー屋さん
- 自慢できること  
かけっこが速い
- 今一番やりたいこと  
ヤモリやトカゲなどを探したい

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。  
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



まつもと りゅうが  
**松本 琉雅くん**  
(6歳・北新山)

- 趣味  
ゲームをすること
- 将来の夢  
仮面ライダーになりたい!
- 自慢できること  
折り紙を折ること
- 今一番やりたいこと  
お友達と遊びたい

# 人権のひろば

子どもの目、子どもの声  
人権  
作文シリーズ  
【No.39】

問い合わせ  
人権教育・啓発課  
☎232-2113

\*作者の学年は作文がつづられた昨年度の在籍学年です。  
\*◇印からの文章は先生のコメントです。

## 勉強して考えたこと

武蔵ヶ丘小学校4年 中野 みゆ



▲友達できたよ

私は、「自立宣言」解放子ども会の立ち上がり」を勉強して、自分が差別しない人になっても、それだけでは決して差別はならないと思いました。自分が差別をしていなくても、他の人が差別をしていたら、自分には関係ないと思わないで、これはおかしいぞと声を上げて、差別をする人を説得していかないとけないと思います。

こうじのお兄ちゃんとの差別事件で、みんなは生まれたところや育ったところが違って当たり前なのに、  
「こうじたちの所は、おれたちとちがうけん、きたにやー遊びしかせん」  
と言われて、こうじのお兄ちゃんはとてもつらくてくやしい思いをしたと思います。こうじのお兄ちゃん、  
「何で同じ人間なのに、そんなことを言うのだから。」  
と、思ったことでしょうか。でも、こうじのお兄ちゃんが言ったとおり、差別は力がかいけつしようとしたらいけないと思います。力づくでかいけつして、その人の前ではやらなくなっても、見えない

所で他の人にしてしまうからです。だから、話し合いで相手を説得して、差別がどつてまぢがつているかを伝えていかないとけないと思います。

こうじのお兄ちゃんやおばあちゃんこのころは差別がきびしくて畑が少なかったので、国有林を畑にできないかと役場、県庁、東京の農林省までお願いに行きました。八年間もかかったけど、畑を勝ち取っていったのです。私は、  
「ねばり強い。そんなことまでして差別に負けずに畑を勝ち取っていったのはすごい。」  
と思いました。

私は、最近あるお店に行った時に、車いすの人をじろじろ見ていました。その時は、そんなことが差別につながっていくことは分からなくて、その車いすの人をずっと見つめていました。でも、この勉強をして  
「あれは差別につながるようなことだった。」  
と分かりました。自分の心の中では、車いすに乗っている人を特別な目で見ていました。

差別とは、人を「女だから」「男だから」「しょうがいがあるから」、「〇〇で生まれたから」「〇〇で育ったから」などという理由で、人を仲間からはずし、深くきずつけていくことです。

差別をゆるさない、おかしいことはおかしいと声を上げていける人、そんな人になりたいです。

## よろしくお願いします



地域人権教育指導員  
中島 たつ子

5月から菊陽町の地域人権教育指導員になった中島です。  
この春、菊陽中部小学校を最後に定年退職しました。その間たくさん子どもや保護者の人と出会い、元気をもらい、多くのことを学ばせていただきました。自分が当たり前と思っていたことが実はそうではなかったこと、自分とは異なる考え方や、人それぞれに培われてきた文化の違いがあることなど。その違いを認め合い、自分も他の人も大切にすることで、人権に守られた豊かな菊陽町を目指し、人権の大切さと、人権を守るためにどう行動していくかを町民の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。  
これから、いろんなところでお目にかかることもあると思いますのでよろしくお願ひいたします。

◇人権学習をして自分のことを振り返り、考えているところがいい。自分には関係ないではなく、自分も差別をなくしていくなかまの一人なんだと自覚し、これからは差別に向き合っていきたい。

## きくよう文芸

### 菊陽句会報

城濠を舟で行く人子供の日	坂本百合子	洞を持つ幹横たへて梅は実に	吉野 早苗
竹皮を脱ぐ竹林の静寂かな	田中 郁子	蛇生れて進めど蛇行極めけり	井上久美子
草餅の八十路の両手に丸められ	井 子文	白川の流にうつる山の藤	宮川ユキエ
ヒーローは孫の十八番や聖五月	財津 早雪	草引けば農一筋の祖父憶ふ	日高 妙子
聖五月花の甘き香胸に抱く	原野レイ子	燥ぎつつすぐに飽く児と汐千狩	曾我 育代
天空へ雲を放ちて朴咲けり	力 幸子	路を煮る娘と惚ぶ姑の味	曾我トモ子
鯉のぼり男の子生まれて家印	寺尾千代子	山の端を立夏の白き月離る	紫藤 祥子
鯉のぼり知覧の空の平和かな	高橋 孝子	母の日や変体仮名の古葉書	村上 朋子
春嵐二人であても孤独かな	堀川 妙子	花吹雪吹けよ被へよ妻の棺	野口 令史
雨雫しだれ桜の重たさう	福田 貴子	燕棲む軒のなき世となりけり	松橋 強
ふきの傘下でかえるが雨やどり	佐藤 健	ナウイでしよこれ母の日のプレゼント	佐藤 澄世
病室の窓に囁く青葉かな	佐藤 節		

### 短歌会

楠若葉埃を流す雨の日は緑も深く一日過ぎゆく  
二月より収穫続く春トマトそろそろ終わりか玉小さくて  
なにごともしながごとくに人は逝き春爛漫に桜花咲く  
薄れゆく雲のまにまに出でて来よ黒き眼鏡を持ちて待ちたり  
風吹けば竿の干し物ゆるやかに揺れて一日の暮れてゆきたり  
生きいきと西瓜は長く蔓伸ばし夫は朝夕手に触れて見る  
吾が庭に大山蓮華の白き花山に出会いし思いつのらす  
眼下は波穏やかな海の辺に貝掘る人ら陽炎のなか

今村 貞子  
梅田 國雄  
河北 幸一  
菊川あさみ  
佐藤せい子  
下田 久子  
中村トシエ  
山川 カツ